

■ 議題

今回の番組審議委員会は、2019年10月19日（土）午前10時30分より放送した「飛驒の歴史 再発見！^{※1}」（案内人：長瀬公昭氏）と、2019年10月25日（金）田中曜子ナビゲーター担当番組『ヒッツ・サンセット・ヴォックス』内で放送したコーナー「FOR YOUR SMILE（フォー・ユア・住まいる）^{※2}」を聴いて審議に入った。

※1 「飛驒の歴史 再発見！」

コーナー内容： 飛驒地方（高山市、飛驒市、下呂市）の祭り・風習・文化等、その歴史について紹介する。まもなく放送600回を迎える長寿番組。

※2 「FOR YOUR SMILE（フォー・ユア・住まいる）」

コーナー内容： アパマンショップ飛驒高山店のスタッフをゲストに迎え、お勧めのアパート・マンション物件を、1回の放送につき3件ずつ紹介するコーナー。

■ 審議内容

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、聴取した内容についてでもよいし、普段聴いている放送についてでもよいので、順次、意見をお願いしたい。

西尾委員： 「飛驒の歴史再発見」は、案内人の長瀬さんが非常に史実で、歴史上の出来事を自らもイントネーションして、非常に分かりやすく話しているのが非常に印象的だった。原稿があると思うが、原稿読みを感じさせないような、非常に滑らかな話し方だと思う。しかし、日ごろナビゲーターの話を聴いている為、たまに、言葉がつかえてしまうことが少し気になったことと、個人的な感想になるが「地球温暖化」について「多少暑くても冷房を使わない」というような発言があったが、これについては「熱中症」とかの関係もあるので、はっきり言わず言葉を控えるべきだと感じた。最後、話の流れから鉄道の紹介もっていく流れは、非常にベストな選択かなと思った。

西尾委員：「For Your 住まいる」は、不動産情報をラジオで聴くのは初めてだが、話の中で、あえて家賃を言っていないのが「じゃあ家賃が幾らくらいかな」のいうのを知りたくなるような、不足であるが故に、かえって知りたいと思わせるような構成が、非常に上手いと思った。また、田中ナビゲーターがアパマンショップの担当スタッフが言ったことを、必ず復唱していたのが非常によかった。アパート・マンション名を紹介する場合、非常に聴き取り難い名前もあったが、ナビゲーターが復唱してわかりやすかった。

大萱委員長：長瀬さんは10年以上番組が続いているし「よくこれだけいろいろな情報を調べられるな」と思った。しかしプロではないので、聴き辛い点もいくつかあるかと思う。聴いているほうとしては、プロもアマチュアも聴きやすいほうがもちろん良いし、ちょっと早口になる時があったので、もっとゆっくり紹介して欲しいと思う。時間決まっている中で大変かとは思いますが。

林委員：「飛驒の歴史再発見」は、600回を迎える長寿番組ということで、若干変化があるとは言え、恐らく最初の頃から、番組のイメージや雰囲気は変わらず放送しているのだなと思い、その雰囲気が定着したリスナーやファンの方には耳に入って来やすい番組だと感じた。しかし、土曜日のこの時間帯（午前10時30分）に放送しても「ふーん」と流れるように番組が終わってしまうような気がした。最後に鉄道の唱歌のネタを紹介したり、途中で童歌を流したり変化があるところはよかった。

「For Your 住まいる」は、全体を通して聴きやすいなと思った。しかし、個人的な感想になるが、物件の細かい特徴的なことを紹介してから「辺りの駅も近い」というような流れで話をしていたが、我々は職業が警察なので、我々の入り方と真逆かなと感じた。参考だが、全体の紹介をしてから、間取りの紹介、外装の紹介をすると、外壁の色などがわかり、もっと物件のイメージがつく気がした。ラジオなので、紹介し辛いところもあると思うが、そういったイメージのしやすさが得られるのかなと思いつながりながら聴いていた。

大萱委員長：情報は多い方が良いと思う。しかし、物件の紹介については「付近に地元の商店街が近いし」と言って欲しかった。コンビニと学校の情報しか紹介しなかったのが残念に思った。そうゆうところも今後、紹介して頂くとありがたい。

大平委員： 「飛騨歴史再発見」は、相変わらず案内人の長瀬さんは、情報をよく調べているなという印象だ。しかし、しゃべるスピードが不安定で、聞き取り難い部分が若干あったので勿体無いと思った。最初の部分、長瀬さんの名前を紹介した時、名前の前に何を言っていたか教えて欲しい？

会社側： 「生涯学習者」と言っている。

大平委員： その部分が少し聞き取れなかった。あと、やはりしゃべるスピードが少し早いと思う。聞き手がしっかり受け止めてくれるようなスピードや、抑揚をつけて話をしてもらおうと、もっとわかりやすくなるのではないかと思う。あと「音楽が欲しいな」と思ったところに、ちょうど童歌が入ってきたので、タイミングとしては「ちょうど聞き手のリズムを分かってくれているな」という感じだった。あの童歌も「言葉自体がどういう趣旨の童歌なのか」が少し気になり、唄のみで終わってしまったので童歌については、長瀬さん自身のホームページやヒッツ FM のホームページに載せて文字でもわかるようにすると、子どもに聴かせる時などに説明ができるかなと思った。あとは、まもなく 600 回放送だが、市民の方からの反響などは無かったのか？反響などあれば、ネタにして番組内で紹介するのもよいと思った。

「For Your 住まいる」だが、このコーナーの収録はスタジオでやっているのか？

会社側： 基本的には、そうだ。

大平委員： 音がしっかり録音されていると思った。それと、田中ナビゲーターが復唱しているところが聞き取り難いところをフォローし、聞き手の立場に立っていて非常に良かった。最後にホームページ、ユーチューブの案内をしていたが、ラジオ放送からホームページ、ユーチューブに誘導していくという構成も良かったと思う。

大萱委員長： 田中ナビゲーターは上手になったと思う。もうキャリアは 4 年くらいか？

会社側： キャリアは 4～5 年になる。

大萱委員長： 慣れてきてよいと思う。

松川委員： 「飛驒の歴史再発見」は、毎回入り方が、時事的なことから始まるのかなと感じたが、たまたま少し前に災害があったので、災害についての現状を伝えたり、声掛けであったり、個人的には、ずっと聴くことができた。じっくり聴けば、すごくためになることなので良いと思うが、例えば、平日にこの番組を小学校とかの授業で、紹介すれば勉強になるのかなと思った。高校でも中学でもそうだが、勉強学習に取り入れてもいいのかなと思った。

「For Your 住まいる」は、委員の皆さんと同じで、すごく聴きやすかった。やはり、田中ナビゲーターが、繰り返して言っていたことが、大変わかりやすく、また紹介する、時期的なタイミング、そういう情報とかポイントがすごくわかりやすく、これから住まいを探している方が、聴きたくするような情報を質問していたので良かった。しかし、先程、意見があったが「価格帯（家賃）」について、お店に来てもらうための戦略かもしれないが、ある程度、価格帯を言ってもらいたいと思った。また、物件の周りに何があるとか、例えば、病院とか、学校とか、スーパーのことを言っていたが、病院でも小児科とか「住む世代」「住む世帯」その「ファミリー層」に合った病院の近くとか、もう少し詳しい情報があると良いと思った。

大萱委員長： 情報はできるだけ詳しいと良いと思うが、限られた時間の中なので大変だと思う。しかし、どういう層に向いている物件なのかがあれば良いのかなと思った。

ところで長瀬さんは番組内容を本にしているのか？

会社側： 4冊本を出している。本のほうは、写真を入れたりしている。

大萱委員長： なかなか、授業でラジオ放送っていうのは難しいかもしれない。本になっているのだったら。

会社側： 本になっている。

大萱委員長： 地元の歴史を知るということは大事だと思う。ただ、長瀬さん自身がいろいろなところで講演（講義）活動したりしているのか？

会社側： 講演（講義）活動しているし、長瀬さんの放送を聴いた方から、問い合わせをしたりしているみたいだ。先程、意見があったが、リスナーから「こういうことについて調べてもらえないか」という要望を直接、長瀬さんに言っていることを聞いた。それをまたネタにして調べたりしていることも聞いている。

中野委員： 「飛驒の歴史再発見」は、私自身、飛驒地方の出身ではないので「そうなんだ」と思いながら聴いていた。正直、全く分からない状態で、この放送内容を聴いてもあまりイメージできない。先程、本が出ている話があったが、放送時に、本を先に出して「今日はこのページについて話します」とかあれば、とてもわかりやすいと思った。

「For Your 住まいる」は、私自身が今、実際に部屋を探しているが、3つの物件を紹介して、どれも良いポイントがあった。その中で「どの物件が1番売りなのか」とか、セールスポイントみたいなことを1つ言ってもらえると、比較しやすいと思った。「家賃について」は気になったが、個人的には、放送で知りたいというよりは「アパマンショップに行って聞きに行こう」と思い、戦略的にはいいのかなと思った。

大萱委員長： 現実的な意見だ。飛驒ではないということは？出身は他所？

中野委員： 石川県出身だ。

大萱委員長： 自分たち、地元の者は分かるけど、確かに、他所の人は多分、この内容を聴いても何もわからないだろうなっていうのは思った。しかし、背景をどこまで言うのかって難しいと思う。それと、物件はアパマンショップへ是非。

原委員： 「飛驒の歴史再発見」は、案内人の長瀬さん、もう10年くらいやっているのだなということで、改めてびっくりした。自身の店で聴いて、私も知らないこともかなりあるし、知っていても「へえ、あの頃の出来事なのだな」という、話を聴いて毎回、ためになる番組だと思う。10年もやっていると、語り口調や構成は毎回同じような感じで、良いこともあるが欠点も出てくると思う。なかなか自分の欠点は、長くやっているとわからなくなるので、その辺りも気を付けて欲しいと思う。先程も皆さんの意見にもあったが、年号とかを言った時、思いだそうとしている間に、直ぐ次の話題に入ってしまうので、もう少しゆっくりしゃべってもらえるとわかりやすいと思う。文章を1つしゃべった後、一息、ほんの一息、間を置いてもらえるとありがたい。長瀬さんの番組は、飛驒地方の歴史に興味の無い人にとっては、非常に勉強になると思う。なので、ますます頑張ってもらいたいと思う。個人的には楽しみに聴いている。

「For Your 住まいる」は、情報がわかりやすかったと思う。特に皆さんの意見にもあったが、復唱していたところが非常にわかりやすく、アパマンショップの「宣伝」をしっかりやっている感じがした。もちろんチラシ（紙資料）の中にも情報は入っているが、それをラジオで具体的に伝えているので良いと思った。

原委員： また、価格、家賃を紹介していなかったのが敢えてなのかわからないが「アパマンショップのお店へ来て下さい」という CM のような紹介をしているので、非常に上手いやり方だと思ったさらに、相手との対談の時の「相の手を入れる」タイミングが上手く、非常に聴きやすかったので、今後の参考になると思う。

ところで、前回の番組審議委員会の時、林ナビゲーターの「リコーダーを吹くシーン」が気になる。毎回聴いていて、リコーダーの音程が狂ってしまうところを聴いていると「聴き苦しい」と感じてしまう。変更することも含め検討して欲しい。できれば、他の音楽を入れるとか考えていただきたいと思う。

会社側： 本人曰く、リコーダーを今まで 100 円程度のものを使っていたが、最近少し高いリコーダーを新しく買ったことを聞いている。本人はやる気である為、いきなり変更することは難しいと思う。

原委員： 元々音程が狂っているから、何とかして欲しい。

会社側： もっともの意見だが、その場で耳コピか楽譜を見て演奏をしており、本人としてもリコーダーを買い替えて、なんとか上手く吹きたい気持ちでいる。それが改善されないのは、意見の通り、何とかするべきかと思う部分もあるが、価値観もあるので、本人がどこまでそれをやりたいのかを確認したいし「このような意見が出た」ということを本人に伝えるつもりだ。

大萱委員長： リコーダーの価格もピンからキリまでであるが、やはり音程は外れないほうが良いかもしれない。アパマンショップと一緒に価格帯があるくらいなので。

会社側： アパマンショップの物件の価格帯については、敢えて言っていない。それは同じ部屋でも価格が違う場合もあるし、そこは敢えて言っていない。逆に言うと、先程の意見の通り、お店に確認して欲しいことや、ホームページには価格は載っているので、そちらで確認して欲しいということだ。

大萱委員長： 理解した。ところで「飛騨の歴史再発見」で、長瀬さんは原稿をかなり作り込んでいるのか？

会社側： 違う。原稿がギリギリまで送られてこない為、事前にチェックができな
いし、練習もしないで「その場で読む」というか、収録に入る為、完璧
ではない。また、本人も「活舌が悪い」ということを、毎回、収録する
度に言っている。その辺りは、近日、2週分の収録があるので「ゆっくり
紹介して欲しい」と伝えるつもりだ。

原委員： 1回あたりの収録で、文字数は決まっているのか。

会社側： 特に決まっていないが、大体、A4原稿で2ページぐらいを紹介している。

大萱委員長： 内容が内容なので、作り込んでいないとはいえ、かなりの文字数を入れ
ていると思う。自分の好きなことだと「これ人間の性」で、絶対に全部
言いたくなる気がする。なので、余裕を持った原稿になると「これでは
足りない」と思い、少し嫌な感じになるのかな？

会社側： 今回聴取して頂いたのは、ほぼ原稿に沿って放送をした。しかし時々、
自分がさらに、今の原稿に言いたいことを加えたい気持ちが湧き、アド
リブを入れるが、さらに長くなる為、編集しながら放送している。

大萱委員長： 松川委員が意見した「すごく聴きやすい」ところだが、最初の時事ネタ
はアドリブなのか？

会社側： アドリブではなく原稿に書いている。しかし、時事ネタが長すぎて、本
編が短いこともあったので、時事ネタを少し短くして、本編のほうを長
くするようお願いしたことを、過去に伝えたことがある。

大萱委員長： ファンも多い番組だと思うし、是非、長寿番組ということで今後も頑張
って欲しいと思う。ところでこれから冬に向って、国道工事事務所や警
察との連携を取って欲しいと思う。

原委員： 先程も冒頭で大萱委員長が「災害の情報はヒッツ FM を聴いて情報を得
て欲しい」と話していたが、万が一、停電などで電気がこなくて、ヒツ
ツ FM が放送できない時の対応を教えて欲しい。

会社側： ヒッツ FM に非常電源用のバッテリーがあるし、バッテリーが切れた場
合は市役所から放送をすることになる。さらにそれも駄目なら、山に設
置してある送信所から放送する事も可能だ。送信所からも、一応、音を
出すことはできる。

会社側： しかし、送信所までいくのに状況によって大変かもしれない。また、非常用のバックアップの電源や、4つぐらい発電機を持っている。

原委員： 点検とかはしていないのか？

会社側： 年に1回位点検している。

大萱委員長： 4台ぐらい発電機があれば、結構もつのか？

会社側： バッテリーとしては1時間位もつと思う。

大萱委員長： 燃料はガソリンなのか？

会社側： まず、無停電電源装置のほうで1時間くらい対応するし、その間に、ガソリンスタンド行って、ガソリン手配してから充電する。スタジオ放送に問題がなければそこから放送ができるし、回線が駄目なら、市役所からの放送ということになる。

大萱委員長： ガソリンは、優先してヒッツ FM に供給されるのか？

会社側： 取引のあるガソリンスタンドから、もらえることになっている。問題無いと思う。

大萱委員長： 今、原委員が言ったが、本当に何が起こるかわからないので、停電でも長い時間、停電してしまうという状況なので、普通に想定外なことが起きると思う。しかしこの状況の中で「じゃあどうすればよいか」は、ヒッツ FM のほうでも考えて欲しいし、是非、行政とも連携をとって欲しいと思う。冬場に向って凍結もあるし、事故は起こらないに越したことはないが、そのような情報もしっかり放送して欲しいと思う。

会社側： 貴重な意見を頂き感謝している。番組向上に繋げていきたいと思う。先程、大萱委員長から話があったが、今後、何が起こるか分からない。そのような状況の中で、ヒッツ FM としても「想定外のこと」も前もって予測し、迅速に、行政とも連携して放送できるように努めたいと思う。また、これから冬になると凍結による事故の情報や、大雪の影響で倒木による停電や道路封鎖など発生することが予想される。事前に対策を取っていききたい思いだ。

会社側： それと、原委員からリコーダーの件で指摘を頂いたが、個人的には味があって良いと思う。弊社社長から「リコーダーを良いものに替えて頑張る」という話で、当分の間様子をみるが、あまりにもひどい状況であればまた考えるつもりだ。

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

令和元年 10 月 29 日（火） 番組審議委員会の席上で説明

■ その他の参考事項

次回開催日 令和元年 12 月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）